２０２４年０９月１９日 読売東京 朝刊 都民２ １３Ｓ版 ２２頁

秘めた思い 表出の場

文人の武蔵野

大岡昇平 ⑰

武蔵野は、古より多摩川の武蔵野、茅原の武蔵野、月の武蔵野として描かれてきました。ほどよく人間の生活と関わる小さな自然の代名詞として記号化され、繰り返し表象されてきました。

その歴史を踏襲した国木田独歩は、近世になって出現した林のある風景に着目して、その起源を問わずに「武蔵野」を著し、身近な自然との新しい付き合い方を示しました。

もっぱら「今の武蔵野」を趣味的に愛好する武蔵野探勝や郊外散策などを流行させました。

小金井市にある「はけの森」緑地。古代多摩川の移動によってできた段丘崖の上に位置する

それに対して大岡昇平は、起源としての古代武蔵野から続く台地の地質や古代多摩川の水流そのものに注目して「武蔵野夫人」を著し、人間の歴史とそれを包含するような自然の歴史を対象化しました。それはＮＨＫの番組「ブラタモリ」に代表されるような、地理や地誌、地質から歴史性を探索する趣味を生みました。

武蔵野の自然とは基本的に、了解可能な人間にとって都合のよい自然を指します。人の手が入った人工的な自然、人間臭さの漂う自然であり、「万葉集」や「伊勢物語」以来、秘めたる恋や恋心が表出される場所でもありました。

独歩は、恋愛と失恋を「欺かざるの記」（刊行を前提に書かれた日記）で赤裸々に記しましたが、「武蔵野」では表に出しませんでした。それに対して大岡は、秘めた思いを秘めたるものとして言語で表出しました。「武蔵野夫人」では、武蔵野を舞台に繰り広げられる姦通における恋愛心理を克明に描きました。

大岡の筆は、戦争の秘め事をも捉えました。「武蔵野夫人」において戦地での体験を描写する場面からは、出征兵士だった勉が「従軍看護婦」と交渉していることがわかります。兵士の体験記にこうした交渉が記されることはほとんどありませんでしたが、ここでも秘めたる経験が秘めたるものとしてそれとなく明るみに出されています。

そのような勉が引き揚げ者として登場することにより、秋山の策略も道子の自己都合も大野家の夫婦関係の歪みも、秘められていたものの表出として描かれたのです。

武蔵野とは、秘めたるものが秘めたるものとして展開される舞台となる場所でした。しかしそれはスキャンダラスな暴露として機能する都心とは異なり、そこから少し離れたところで繰り広げられるからこその純粋な劇でした。

（武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍）

＊

過去の連載は、読売新聞オンラインでお読みいただけます。スマートフォンはＱＲコードから。